

1971年8月7日 第三種郵便物認可(毎月6回 1の日・6の日発行)
1999年3月4日発行 SSKA増刊・通巻3217号

SSKA

ああるぴい

神奈川支部会報第10号



私たち自身で
治療法の確立と
生活の質の向上を目指す

JRPS神奈川支部

神奈川県支部支援会員（順不同）

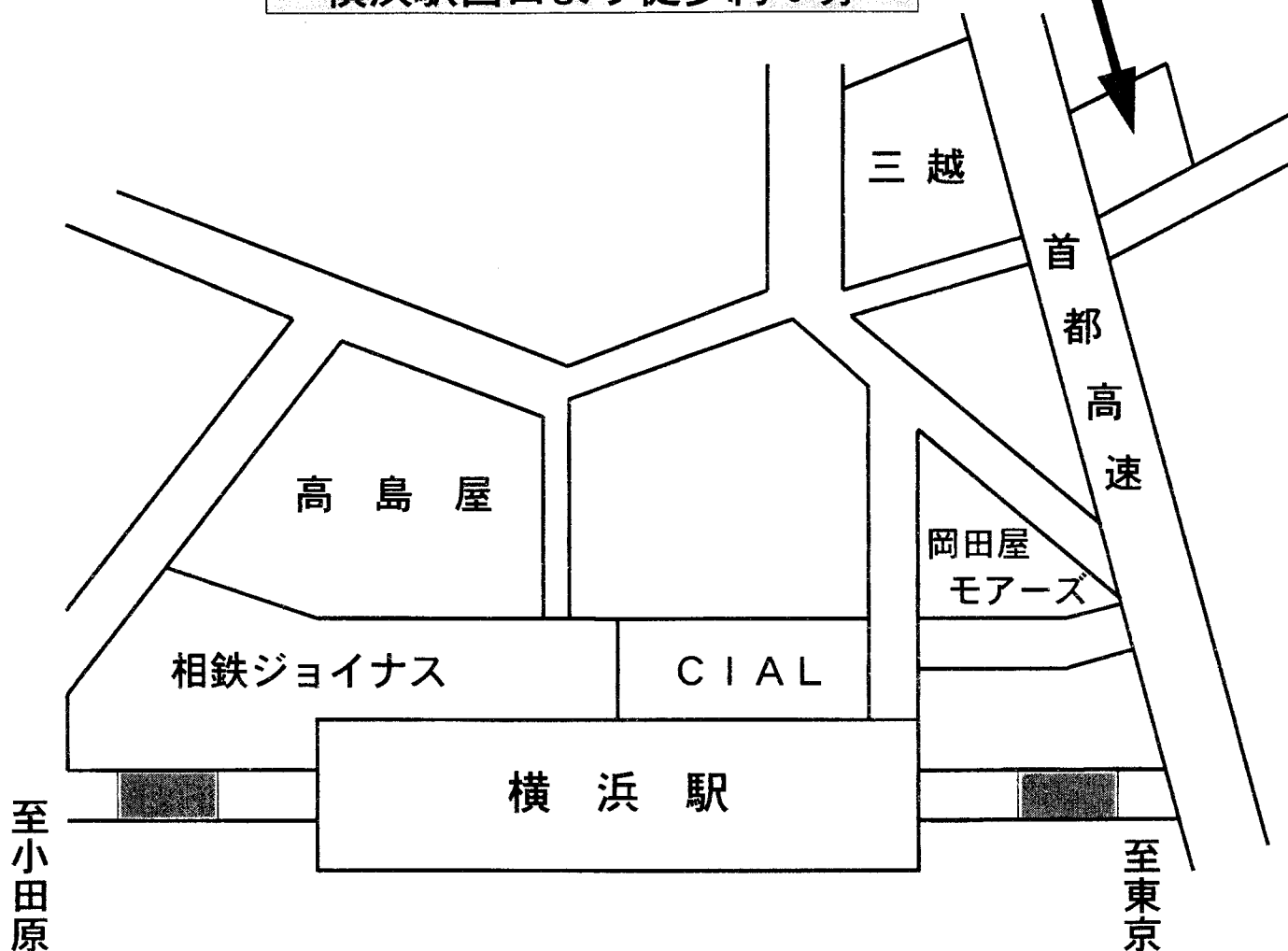
- ・（株）東栄エンジニアリング
- ・（株）ウイルマン
- ・（有）結伸工業
- ・英弘精機（株）
- ・フォトプレジジョン（株）
- ・（株）ナカダ技研
- ・高木 緑様
- ・木村邦雄様
- ・細川和明様
- ・豊嶋識明様

☆ご支援に心より感謝いたします☆

神奈川県民サポートセンター

045-312-1121

横浜駅西口より徒歩約5分



目 次

—	J R P S 神奈川の活動 —	2
	●活動予定	2
	【視覚障害者総合福祉機器展】	2
	【中途視覚障害者の為の得々講座】	3
—	情報コーナー —	4
	●2002年世界大会に向けて— P a r t 3 —	4
	●横浜市電話による情報サービス開始	4
	●連載 よもやま情報 (6)	5
	●ドラえもんのポケット	5
	●ガン保険	6
	●神奈川県ロービジョン連絡会、初会合！	7
—	投稿 —	8
	●理療科(盲学校)奮戦記 No.4	8
	●ウッチャンの思いっきり体験記—最終回—	9

— J R P S 神奈川の活動 —

●活動予定

- 3月 6日 (土) ミニ集会 県民活動サポートセンター
- 3月 13日 (土) 視覚障害者総合福祉機器展 (詳細別掲)
- 4月 3日 (土) 中途視覚障害者の為の得々講座 (詳細別掲)
「メイクアップ講習」
- 5月 1日 (土) ミニ集会 県民活動サポートセンター
- 6月 5日 (土) ミニ集会 県民活動サポートセンター
- 6月 20日 (日) 神奈川支部総会 (詳細は次号、総会後のイベント
について希望があれば連絡下さい)

【視覚障害者総合福祉機器展】

日頃の生活に、仕事に不自由を感じている視覚障害者の為の日本で初めての総合展示会です。自分の障害の程度に合った機器やグッズを選んで、QOLの向上に役立てて下さい。

- ・日時：平成11年3月13日 (土)
午前10時～午後4時
- ・場所：横浜ラポール1階ラポールシアター
横浜市港北区烏山町1752
電話：045-475-2001
- ・交通：JR・市地下鉄新横浜駅下車徒歩15分
駅前より無料送迎バス (0分、30分)
JR改札口 (在来線) から会場まで誘導員を配置
- ・入場無料
- ・出展企業・団体
NEC、富士通、富士通東北海道SE、富士通中部S、
アメディア、タウ技研、高知システム開発、SSCとちぎ
以上パソコン及びソフト
KGS (ピンディスプレイ) Fサービス、
HIG (パソコンサポート)
東京ソフトウェア、東京電子工業、ナイツ、
ヒルカIN (拡大読書器) アルプス電気、ウツミ、リコー、

- 三菱P（誘導システム）、山梨大学（盲導犬ロボット）、
メルコム（音声電子手帳）、朝倉メガネ、
東海光学（遮光眼鏡、ルーペ）、北海道JR商事（表示シール）、
資生堂（メイクアップ）、大活字（本）、アメリカンファミリー、
大東京火災海上（保険）、ジオム社、
日本点字図書館（点字器、便利グッズ）、
ライトセンター、七沢ライトホーム、光友会（施設）、
弱問研、タートル、雇用を進める会（視覚障害者団体）
- ・相談コーナー
相談員を用意しておりますので、使用、購入などの相談を受けられます。
 - ・主催：JRPS神奈川支部

【中途視覚障害者の為の得々講座】

「メイクアップ講習」

鏡が見づらくなった、化粧がしづらなくなった、もっと美しくなりたい！そんな悩みを一挙に解決。明日からは明るく、美しい貴女が出現します。（株）資生堂化粧品販売横浜支社の協力でRP女性の為のメイクアップ講習会が開催されます。当日は資生堂の専門技術員が個別に指導してくれます。（化粧品は資生堂提供です）

- ・日時：平成11年4月3日（土）
午後1時～4時
- ・場所：県民活動サポートセンター・7階・708
- ・費用：無料

— 情報コーナー —

●2002年世界大会に向けて—Part 3—

RI（レティナ・インターナショナル）。皆さんご存知ですか？
IRPA（国際網膜色素変性症協会）が昨年から名称を変更しました。それに伴い、網膜症の患者（RPに限らず）は会員になれる？ようになった？？？ それは改めて本部から広報があると思います。

今回は、今まで世界大会がどこで開かれたか紹介します。

- | | | |
|-----|-------|----------------|
| 第一回 | 1978年 | ロンドン（イギリス） |
| 第二回 | 1982年 | ボルチモア（アメリカ） |
| 第三回 | 1984年 | ヘルシンキ（フィンランド） |
| 第四回 | 1986年 | ミュンヘン（ドイツ） |
| 第五回 | 1988年 | メルボルン（オーストラリア） |
| 第六回 | 1990年 | ダブリン（アイルランド） |
| 第七回 | 1992年 | ヨハネスブルグ（南アフリカ） |
| 第八回 | 1994年 | パリ（フランス） |
| 第九回 | 1996年 | ワシントン（アメリカ） |
| 第十回 | 1998年 | ルガノ（スイス） |

これからは予定

第十一回 2000年 ??（誰か知りませんか）

第十二回 2002年 木更津（日本）

こうして見ると、アジアで初めてなんです。

次回からは各国の組織、活動を紹介したいと思います。

●横浜市電話による情報サービス開始

インターネットなどで、横浜市の市政及び生活情報を流していたのを、1月21日からパソコンを持っていない人たちのために電話による情報サービスを始めました。

電話番号 045-680-5100

●連載 よもやま情報（6）

◇ 音声体温計

耳の中で1秒で計れる体温計の音声付きが発売されました。

「はかるくん」という名称です。日常生活用具にも指定されていますので、福祉事務所を通して日本点字図書館で購入すれば補助が受けられます。また、市販されていますので、安売り店で購入するという手もあります。ちなみにヨドバシカメラ横浜駅前店では13200円でした。

◇ 音で遊べるゲーム

音声ゲーム「おとげい」はヘッドホンから聞こえる音を頼りに的の音と自分の音を左右の音の転位で捕捉して的を撃ち落とすゲームです。3000円で一般のおもちゃ屋さんで市販されています。メーカーはバンダイです。

●ドラエモンのポケット

♪あんなこといいな、できたらいいな♪

視覚障害者が外出する時、行き先を電話番号か住所又は画面の地図上で設定すれば、音声で道案内をしてくれるナビゲーションシステム。夢のような話です。自動車の「カーナビ」は正確に目的地まで案内してくれるシステムが実用化されています。ところが私達視覚障害者用ナビの開発が進んでいる？ 情報がインターネット上に出ていたそうです。以下概略を紹介します。

視覚障害者を目的地まで正確に誘導する為には、本人の正確な位置が分からなければなりません。そこで位置情報を取得する手段としてカーナビ等に利用されているGPSの利用を検討しました。しかし、現在使用されているGPSはアメリカ軍の所有する人工衛星からの情報を使用している為、軍事的要因から乗せられているランダム誤差によって、最大40m程の誤差が生じてしまいます。これでは、時速40Km以上で走行しているような自動車のナビゲートは出来ても、時速4Km程で歩いている「人」のナビゲートには使用出来ません。しかし、DGPSを使用すれば誤差を3m以内に抑えられる。人工衛星からの電波の届かないトンネル等は

ジャイロ、加速度センサーからの情報を元にして、マップマッチング処理を行うという研究がすすんでいます。

GPS(Global Positioning System)

詳しくは

<http://clotho.ep.u-tokai.ac.jp/inoue/study/navigat.html>

(株)メルコムの上田様から情報を頂きました。

皆さんからの夢の様な ♪あんなこといいな♪ の投稿を待っています。

●ガン保健

生命保険の一種である「ガン保健」がR P患者にも加入出来るとの情報が有りましたので紹介します。

”ガン”はご承知のとおり死亡原因の首位をを占める(30%)病気です。又、ガンは多額の医療費がかかる病気です。

アメリカンファミリーのガン保険はR P患者でも加入出来ます。

「ガン保険・・スーパーがん保険」の概要は以下の通りです。

☆保障の内容・保険料(一口につき)☆

	給付対象		個人契約 (契約者のみ)	家族契約(契約者+ご家族)<配偶者と23歳未満の子供>	
				契約者	ご家族
保障内容	診断給付金	初めてガンと診断された時	100万円	契約者 100万円	ご家族 60万円
	入院給付金	1日につき (日数無制限)	15千円	15千円	10千円
	在宅療養給付金	1退院につき (回数無制限)	20万円	20万円	15万円
	通院給付金	1日につき	5千円	5千円	3千円
	死亡保険金		150万円	150万円	100万円
保険料	契約時 年齢	20歳	1690円	2420円	
		30歳	2320円	3290円	
		40歳	3250円	4480円	
		50歳	4580円	6100円	

問合せ先：アメリカンファミリー生命 特別代理店
富士ライフ（株）川崎営業所 担当：佐々木裕子
電話 044-329-2368
FAX 044-329-2367

※保険に関する情報が有りましたら、支部事務局までお知らせ下さい。

●神奈川県ロービジョン連絡会、初会合！

2月24日（水）ライトセンターで神奈川県ロービジョン連絡会の初会合が開催されました。神奈川県リハビリテーション病院の仲泊先生、北里大学の青木先生、上岡眼科の上岡先生、七沢ライトホームの渡辺先生などが呼びかけられ、眼科医師、リハビリ訓練指導員、ソーシャルケースワーカー、視能訓練師、盲学校教師、特殊教育研究員、施設職員等20数人が参加。

医療、教育、福祉がそれぞれ連携・研修を通じて、ロービジョンのリハビリテーションに寄与することを目的に活動することが採択されました。視覚に障害を感じた時、入口は眼科もしくは、眼鏡店。それだけで解決出来ない障害をもった人（まさにRP）の医療・教育・リハビリ・福祉・就労について、総合的にリハビリを行う。ロービジョンクリニックの現状とこれからについても県リハビリ病院、北里大学東病院から報告がありました。

連絡会の詳細については次号に掲載します。

— 投 稿 —

●理療科(盲学校)奮戦記 No 4

佐々木裕二(小田原市)

～1年経った～

去る2月2日、学校は入学試験のため休みだった(ラッキー!)
考えてみれば1年前、私も不安を抱えた受験生だった。落ちることは考えていなかったが、按摩鍼灸師というものがどんなものなのか果たして私にできることなのだろうか・・・? 学校生活は? 家計は? そんな思いを胸にしなから初めて顔を合わす同級生となるであろう人たちと控え室の畳の上にいたのを思い出します。

今年は何人の人が入ってくるのだろう、いや自分が2年に進学する為には最後の難関、学年末試験が待っている。(まずい!こんなことをしている場合ではない—原稿を書きながらも現実が頭をよぎります。) 1年経って、授業や他の学校生活もみんな楽しいのですが、一番大切なものがつかめなくて困っています。それは、「鍼は治る」という確信です。このままだったらたとえ国家試験に合格したとしても治療ができないのではないかと心配です。ましてやいい治療師には絶対なれない・・・。

按摩やマッサージの気持ちよさは実感できるのですが「鍼は決して気持ちいいものではない」という気持ちが壁になっており、これを払拭させてくれる出会いはまだありません。鍼で良くなったという話しは身近でも聞いたことがあるし、学校の臨床報告も山ほどあるのですが、自分自身が鍼で良くなった、気持ちよかったという経験がないからそういう気持ちになるんだと思うのです。誰か解決してくれませんか?それとも入り口では分からない奥の深いものなののでしょうか? 今日も授業は続きます。

～もう一つの心配?～

視力が落ちてきた。これは避けて通れない道なのか。私のノートはパソコンです。とても自分で書いた文字は読めない!。だから授業中もカチャカチャ、もらったプリントもみ～んなカチャカチャ。10年会社でできなかったタッチタイプも1ヶ月でマスターした。しかし、そのパソコンの画面が文字が、14Pが16Pにそして18、20。どんどん文字を大きくしないと読めなくなってしまい

ました。ところが16Pを越えたあたりから文字を大きくすると字が欠けてしまいとても読みづらくなってきました。視力は入学時0.4~0.5だったものが今は0.3~0.2。試験の度に悪くなっているような気がします・・・。

クラスにはいろいろな原因で障害を持った人がいると以前書きましたが、点字を練習し始めた人もいます。点字では他の人とのコミュニケーションができないじゃないかと拒んできた私ですが、両方でできればもっといいじゃないかと現実を受け入れ始めています。

見えることはとても重要です、しかしもっと大切なことがたくさんあると思います。だから見えなくなっても大切なことが自分でできるようにと選んだ道なので必ず最後まで成し遂げて、鍼の良さも好きになれるよう努力したいと思います。

インフルエンザが流行っています。鼻うがいがいいですよ。皆さん気を付けて下さい。

●ウッチャンのおもいきり体験記—最終回—

内田 知（厚木市）

ウッチャンが目の異常を感じたのは24・5才の頃であった。たいした不自由もなく気ままな生活をしていたのだが、30をちょっと過ぎた頃、視力障害の中の弱視と言われる状態にまで病気は進行していた。だが病院に行く気にはなれなかった。結果を知る怖さもあり、まだ自分で自分をごまかすことのできる状態だからでもあった。しかし、どんなに自分をごまかしても視力が落ちてきている状態での行動は他人から見れば異常であり、家族に「目が悪くなったんじゃないの?」「そんなことない!」と言う、言い逃れも徐々にできなくなった。結局心配する母親と妹と共に病院に行くのだが、ウッチャンは診断の結果は最悪だろうと考えており、自分だけに結果教えて欲しいと頼み診察室へむかった。案の定、一回聞いただけでは覚えられないような難しい名前の病名が告げられ、愕然としたウッチャンであった。そして、その結果を家族に話すべきかどうかで更に悩んだ。

その頃のウッチャンの家では、他人こそ巻き込むことはなかったが、ホームドラマで起こるような出来事が一遍にやってきて嵐のよ

うに激しい風が吹き荒れていた。こんな状況の中でまた一つ、大きな問題を家族に抱え込ませることはできない。まだまだ仕事は出来ている状態なのだから自分のことは後にして、一つ一つの問題を解決していくことが先決だ。その後で将来を考えても間に合うだろうと考えたのだった。（進行していく目の状況下においては、非常に甘い考えだったのだが）自己主張を繰り返し感情的になり、時に相手を罵り、何も解決しないまま時間だけが過ぎて行く話し合いが、繰り返し行われていた。ウッチャンは「お前らのことを考える余裕などない。好きにしろ」と、いいたい気持ちを必死に耐えていた。だが精神的な重圧はウッチャンを徐々に変えていき、それはジギルとハイドのようなもので、一人になるとどうしたら楽に死ねるかを考えていた。ただ妹には「俺の犠牲になってお前の人生を変えてしまったと、負い目を感じながら生きるのは辛い。お前の思うようにすればいい。決してお前を責めるようなことは言わない」と告げた。数ヶ月後、妹は家を出た。それから父親と母親との3人暮らしが始まった。母親の鬱陶しいほどの世話が始まり、優しさからしていることだと分かってはいても、世話をやいてもらえばもらうほど惨めになり、それ以上に見えなくなったことの怖さが重圧となって襲いかかり、些細なことで喧嘩になった。そんな生活の中でウッチャンの心と身体のリズムは崩れていった。身体の変調はウッチャンに強度な便秘をもたらせた。耐えきれずに薬を買ってきてもらい飲んでみたが全く効かない。もうどうでもいいから大量に飲んでしまえと残った錠剤を半分以上一気に飲んだ。しばらくすると胃の痛みが襲うと同時にトイレに行きたくなった。慌てるウッチャンだったが室内とはいえ歩行訓練も受けていない状態であるから間に合うはずもなくトイレの入口で座り込み、垂れ流してしまったのである。その時の有様をどう説明したらいいのか・・・頭の中は真っ白だった。ただ夢中で風呂場に行きシャワーを浴び汚れた体を洗ったが、尚も襲ってくる胃の痛みと同時に、風呂場で垂れ流していたのである。胃の痛みも治まり落ち着きを取り戻したウッチャンは必死になって風呂場と廊下を掃除した。普通なら大声を出して泣くのがパターンだろうが、それどころではなかった。ただ父親も母親もいない時で良かったと、妙な安堵感に包まれた。多分その夜は意味もなく母親に当たり散らし眠れぬ夜を過ごしたのだろうが、何故かそれ以

後の記憶が今でもはっきりしない。ただあの時包丁を握っていたことだけは覚えている。見えなくなった目で天井を見つめる毎日が辛く、死を選択しそうな怖さにおびえながら過ごしていた。そして時間の経過と共に、何のきっかけかわからないが、自分がどうなっていくのだろうと言う考えから、どうしたらいいんだろうと言う考えに変わっていった。

母親と病院に行ったウッチャンは、初めて一緒に診察室に入り、「自分の病気がどう言う病気なのかを母親に説明してほしい」と医師に頼んだ。驚いた母親は医師にたくさんの質問をしたが、返ってくる答えはすべて「今の医学では無理です」と言う言葉でしかなかった。「なんでもっと早く言わなかったの」と責められたが、心の中の言い様のない怒りを抑えて「心配かけたくなかったただけだ」と答えた。

それから数ヶ月後のこと、ウッチャンはライトホームでの入所生活を始めていた。その生活の中で少しずつ自分を取り戻しつつあった。ライトホームの職員の指導もあったが、大変失礼な言い方であるが、ライトホームの存在よりもそこで出会った多種多彩な障害をもった仲間との出会いと体験が、自分の欠点と、自分への反省を促すことになった。一番の出来事は、障害が進行していて自分の命が無くなるとわかっていながら、懸命にリハビリに励む子供たちに出会った事だろう。テレビなどで間接的にそんな子供達の存在を知ってはいたが、実際に目のあたりにし、尚も「僕の障害よりも目の見えないことのほうが辛いことだよ」と言ってくれる優しさに、何度となく泣きそうになった。”障害は不自由なことではあるが不幸ではない”等と言う、きれいごとでは済まされない若い障害者や子供たちの心の叫びを聞いたことで、自分の欠点ばかりを知ることになったが、ウッチャンは完全にウッチャンに戻ったのである。今後の生き方を考えた時、自分の力を試すため、自分を自分なりに鍛えるために、数年間は一人暮らしをしてみるのもいいだろうと思った。一人暮らしをする理由は沢山あるのだが、ここで書いてしまうと後のネタ不足になるのでここでは書かないもん。

世の中妙なもので、どんなに頑張ってもうまくいかないことが、時間が解決してくれることが結構ある。ウッチャンの一人暮らしが始まったと同時に全てが丸く収まるわけではないが、家族の中にあ

ったわだかまりも少しずつ解け、孫が生まれたことによって100%まではいかないまでも、両親と妹の関係も修復され、今では楽しそうに孫と遊ぶ母親の姿がある。

さて、厚木に住んで約3年。この間に家族に対する不信感は、自分のわがままな逆恨みから始まり、家族の中で起こる様々な問題から自分が逃げていたことによろやく気が付いたのだ。3年間は俺の自由にさせてくれと約束して始めた一人暮らしもそろそろ終わり、4月には両親と共に暮らすため横須賀に戻る。また新たな生活が始まるが、ライトホームでの入所生活と3年間の一人暮らしの中で得たすべてのものを生かし、とことん本音で生きていこうと決めたウッチャンである。今回の内容を母親が読んだとしたら家の恥を世間にさらして何が楽しいのかと怒り出す様子は眼に見えている。まだ家族には話せない。話すことのできないことばかりである。だからこそ厚木にいる間に書いてしまおうと思ったのだ。そして、もう一つの理由は、神奈川支部の会報についてである。JRPS一支部が出す会報にしては中身が濃いものだと、自他共に認めるところではあるが、投稿に関しては少し不満があった。それはいつも同じ会員のものが多く、あとは支部の活動に参加した会員に依頼して書いてもらう。真の意味で自主的に投稿され発表されたものはないと言っていいたい。支部の会報は会員のものであり、会員が作っていかなければならないと考えると、自主性のない投稿には疑問を感じる。ウッチャンの載せる投稿は自分の体験を面白おかしく書いて、それが応援のメッセージだと思っていたが、自分の闇の部分さらけ出してウッチャンより辛い体験をしたり、今なお過酷な日々を送っている会員の人達へ、例えどんな内容であっても自分の思いをぶつけることができる場所が、この会報のコーナーであることを知ってほしいと考えたのである。読んだ人の感じ方はそれぞれであり、異論を唱える人もいるかもしれない。しかし、読み終わった後でバカにする人はいないであろう。何故ならば投稿した人も、読んだ人も同じ苦しみを抱え、懸命に生きている仲間同志であるからだ。活動に参加することを躊躇する気持ち、参加したからといって何が変わるかと考えるのは当然だと思う。しかし、今の自分がイヤになり変わろうとする気持ちが少しでも沸いたなら、その勇気を文章にして投稿してほしい。今回のウッチャンと同じように、家族に読まれた

ら困る内容もあるだろう。そんな時は匿名でもいいと思う。ウッチャンが許します。

尚、惜しまれつつも、〈おもいきり体験記〉はここに終了しますが、あまりにも続けてほしいと言うファンの声に応じて、ウッチャンの〈わがまま体験記〉と題して、次号より連載開始。

最後にお問い合わせ。ウッチャンの家族に会った時は今回の内容に関して話をしないように。過ぎ去った嵐が舞い戻ってきてしまうのです。宜しくお願いします。会員の皆様の優しさを信じております。

—お願い—

使用済みのテレホンカードがありましたら、JRPS神奈川支部事務局のほうまで持ってきて下さいますようお願いいたします。

JRPS神奈川支部会報の点字版、テープ版を希望される方は神奈川支部事務局までご連絡下さい。

神奈川支部事務局：中村善暁

〒253 神奈川県茅ヶ崎市萩園1445-6

TEL. 04 * * * * * * * *

FAX. 04 * * * * * * * *

—◇編集後記◇—

いつのまにか神奈川支部の会報も10号を迎えることになりました。いつも締め切り間際に編集しておりなかなか余裕を持って作れません。今号の投稿で、ウッチャンこと内田さんが言われていましたが、この会報は皆さんで作るものなのです。恥ずかしがらず、面倒くさがらず、自分の気持ちを会報にぶつけてみてはいかがでしょうか?!皆さんの投稿を首を長くしてお待ちしています。

発行人：身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

編集：J R P S 神奈川支部会報編集部
阿部直之

〒213 神奈川県川崎市高津区

TEL・FAX 04

E-mail UE

定価 200円